

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500303
法人名	社会福祉法人 三恵会
事業所名	グループホームかがやき
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7-20
自己評価作成日	平成27年8月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設に隣接して市の東浜公園があり、開放的でいつでも気軽に散歩ができ利用者様の気分転換に繋がっております。お花見、運動会などを実施し季節感を味わっていただいております。特養うみかぜと合同で毎年開催している「恵海まつり」は6月の地域のイベント行事として定着しつつあります。地域の方、ご家族とのふれあう場として今後も感謝をこめて工夫しながら継続していきたいと思っております。特養との複合施設の為利用者様の機能低下があっても、リハビリ、入浴設備等を共有できるため安心・安楽な生活に繋げることができると考えています。事業所の理念として「笑顔で、共に、生き生きと」を掲げ利用者様と一緒に生活し、笑顔を多く引き出せるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●居間の掃き出し窓からは、隣接する公園の芝生の広場が眺められ、利用者は居間から外に出て、職員と日向ぼっこしたり、洗濯物干しや取り込みをしている。居室前の廊下で歩行練習する利用者があり、歩いた距離が分かるように10mの地点に印を付けてあった。又、雨の日は、併設施設につながるドアを開放し、ぐるっと廻れるようにして歩行練習することもある。雑誌や新聞、リハビリやレクリエーションの用具等が整理されており、利用者それぞれの状態やレベルに合わせて職員が提供している。温度、湿度計をかけており、職員は意識しながら管理している。
●利用者の誕生日は、当日にケーキとプレゼントでお祝いし、できるだけ当月中に「夢プラン」として利用者ご本人の希望を叶える取り組みを行っている。たとえば、新居浜の太鼓台祭りがとてもお好きな利用者には、新しくできた市内の「あかがねミュージアム」に展示されている太鼓台を見学に行くことを支援した。利用者はとても喜ばれ、後日も職員に「よかった」と話されたようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームかがやき

(ユニット名) 虹

記入者(管理者)
氏名 小笠原博子

評価完了日 平成27年 8月28日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑顔で、共に、いきいきと」をかがやきの理念として掲げ、ユニット内に掲示し常に理念が認識できるようにしている。また、職員も共に楽しく、生活ができるように努めている。	
			(外部評価) 事業所開設当初、職員の思いを出し合って理念をつくっている。又、職員が理念に具体的に取り組めるよう事業所全体、及びユニットごとに年間目標を立てている。管理者(施設長)は、「グループホームは、利用者に寄り添ったケアができることが特長」と話していた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 東浜自治会に加入し地域の一員として交流している。地域行事(運動会、夏祭り、文化祭)に職員と共に参加し楽しんでいる。事業所が開催の「第3回恵祭り」では昨年以上に地域の方が参加して頂き、恒例行事となりつつある。又、今年から近隣の保育園児の訪問があり、利用者は訪問を待ち望んでいる。	
			(外部評価) 事業所には小規模特養やショートステイが併設しており、全体で地域とのつきあいに取り組んでいる。事業所が所在する地区は「福祉ゾーン」と呼ばれており、近隣には他法人の介護施設が複数あり、今年の運動会は、隣接する自治会公園の広場で一緒に行った。調査訪問日は、建物内の地域交流スペースで移動販売があり、他施設からも利用者や職員が買い物に来ていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 外部研修の参加や事業所内での認知症の勉強会は実施できているが、地域の人々に向けての活動はできていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 日常生活や行事の様子は映像にて伝え、外部評価・実地指導・ヒヤリハット・事故等については内容を報告している。感染症等の勉強会を必要時に実施。会議での質問や意見等は改善点としてユニット会等で話し合い、サービスの向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 会議には、利用者やご家族、自治会長や民生委員、近隣住民が参加しており、約40分の会議となっている。会議は、事業所のことを知ってもらえるよう取り組んでおり、行事や利用者の状況、ヒヤリハットや事故報告を行っている。利用者も自己紹介して、「食事が薄味でいい」と食事の感想を話す方もあるようだ。地域の方から地域行事の情報を得ており、利用者と参加するきっかけになっている。</p>	<p>事業所では、会議のマンネリ化が課題になっている。今後は、参加者の「為になるような会議」もすすめていきたいと話していた。さらに、会議の目的や意義を踏まえて、参加者を増やしたり、参加者と事業所がより知り合えるよう内容に工夫してほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険制度の改正時には疑問点を聞き説明を受けている。運営推進会議に市の介護福祉課より1名参加していただいている。助言を受けたり事業所の取組みをアピールし協力をお願いしている。2ヶ月に1回介護相談員の訪問があり利用者の話を傾聴している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者からヒヤリハット、事故報告の仕方についてアドバイスがあり、事業所では、より具体的な報告に取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 現在身体拘束の具体的な行為は行っていない。2ヶ月に1回「うみかぜ」と合同の身体拘束廃止委員会を開催し、職員の言葉による拘束がないか等話し合っている。毎年1回全職員対象の勉強会を実施し、利用者マイペースで過ごしていただき、身体拘束をしないケアの大切さの理解を促している。日中玄関は開放し利用者は自由に入出入りすることができる。</p> <p>(外部評価) 玄関に施錠はしていない。又、居間の掃き出し窓から外に出られるようになっている。事業所ではヒヤリハット記録の様式を新しくして、毎日、気になることがあれば気軽に記入できるようにしており、職員の事故防止に対する意識付けと利用者の状態や傾向の把握に向けて取り組んでいる。又、事故報告書は、ユニット間でも共有し、再発防止につなげるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 2ヶ月に1回委員会を開催し、日常の職員の行動や言動が虐待になっていないか話し合っている。議事録にて全職員が認識できるようにしている。年1回勉強会・グループワーク等を実施しグレーゾーンを見過ごさないよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修には積極的に参加し理解を深めている。利用者個々の状況に応じて、必要時には支援できるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけて十分説明するように努めている。介護報酬の改定、加算の変更により利用料金を変更する場合は、文章による通知と口頭で説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には毎回家族、利用者に参加していただき、意見、要望などを伺っている。あまり意見がでない時もあるので今後工夫が必要。年1回家族全員にアンケート調査を実施し、意見を反映する様にしている。意見箱も設置している。 (外部評価) 地元からの入居が多く、又、ご家族の来訪も多い。ご家族の来訪時、職員は、ご家族とゆっくり時間を持つことに心がけ、毎回、「事業所に対しての意見はありませんか？」と聞いている。ご自宅でお好きなお花を育てていた利用者のご家族が、毎月、庭から花を摘んで来てくれて、利用者の方々と一緒に活かしてくれる。又、ご家族が所属するボランティア団体が踊りや歌を披露しに来てくれる。法人全体の取り組みとして2年に1回「家族懇親会」があり、ご家族は食事しながら職員とお話等している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 事業所内で実施している全体会、所属長会(1回/月)、ユニット会(1回/2ヶ月)、人事考課面接(2回/年)、賞与支給月に管理者と面談等で職員の意見を聞き、運営に反映させている。人事考課面談では職員が発言しやすいように配慮していきたい。	
			(外部評価) レクリエーションやリハビリの用具等は、職員の提案やアイデア等を活かして採り入れたり、手作りしている。ユニットによっては、職員のアイデアで椅子の足にテニスボールを履かせて消音に配慮していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は毎月1回事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にしている。管理者とは個別に来所時に面談を実施している。人事考課では半年間の目標を確認し達成できるようにフォローしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修には積極的に参加できるようにしている。報告会、必要時には伝達研修を実施している。各資格取得については所属長が勤務の便宜を図り、勤務しながら取得できている。毎月「介護技術」隔月「認知症」の勉強会を実施し、職員の育成に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の相互研修・各種研修に参加し、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。また近隣の同業者とは、お互いのイベントに参加し、防災訓練時には協力体制を結んでいる。現在グループ内同業者との相互研修を計画中。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談後、訪問し本人の困っていること不安なこと、希望などを聞き入居時に不安なく安心して生活して頂けるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に今までの生活歴、既往歴、家族の気持ちや要望を聞き、話し合いを実施している。入居後は面会時等に、職員の方から声掛けし状況報告するなどして訪問しやすい雰囲気をつくるように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居前面接で在宅生活の状況把握をし、現在必要としているサービスを見極め提供できるよう、話し合いを実施している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で利用者様ができることを一緒に実施し、負担にならないように配慮している。園庭の草取り、洗濯物干し・たたみ、ゴミだし、食後の片づけ、おぼん・テーブル拭き、自宅に植えている花を持参し活けてユニット内に飾るなど、暮らしを共にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居前まで実施していた外食や受診等は継続して頂いている。法事等の外出、外泊についても継続できるように支援していきたい。定期的な面会はほとんどの家族が実施している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前は知人の面会があったが、最近は減ってきている。1名のみ馴染みの美容室に現在も通い、定期的にスーパーでの買い物も家族と共に実施している。 (外部評価) 利用者の誕生日は、当日にケーキとプレゼントでお祝いし、できるだけ当月中に「夢プラン」として利用者ご本人の希望を叶える取り組みを行っている。たとえば、新居浜の太鼓台祭りがとてもお好きな利用者には、新しくできた市内の「あかがねミュージアム」に展示されている太鼓台を見学に行くことを支援した。利用者はとても喜ばれ、後日も職員に「よかった」と話されたようだ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の席や活動時のメンバー等は、気の合う方と楽しく実施できるよう配慮している。ユニット間の交流の機会をつくるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 複合施設のため「かがやき」を退所し「うみかぜ」を利用となった時は、相談や支援に努めている(1名のみ)。他は在宅に帰られるケースが少なく取り組みはできていない。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式の一部を取り入れ各担当者が利用者様の意向を聞きアセスメントを実施するようにしている。本人の意向とご家族の意向が異なる場合は、再度家族と話し合い、できるだけ本人の意向に添えるように努力している。年に1度誕生日に職員と一緒に希望を叶える「夢プラン」を実施している。 (外部評価) 職員は、利用者との日頃のかかわりの中から個々の情報を知り得ている。利用者のレベルや状態に合わせてドリルやレクリエーションを提供しており、職員が付き添い支援している。職員は「利用者とのかかわりが多いほど笑顔を引き出せる」ことを感じていた。落ち着かない状態の利用者には、24時間シートで利用者の生活リズムの把握に取り組んでいる。	利用者がその人らしい暮らしを続けられるよう支援するためにも、個々のこれまでの暮らしぶりや現在の暮らし方の希望、今後の暮らしへの希望等の情報を蓄積できるようなアセスメントに工夫してほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に生活歴等を確認し把握するように努めている。又、サービスを利用するようになった経緯や利用中の様子など、ご家族や居宅ケアマネから情報を収集している。草引き、園芸、洗濯物たたみ、お盆・テーブル拭き、ごみ捨てなど生活の中でのひとこまを一緒に実施している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの身体面や精神面については、発言、行動、仕草等を個別のケースに記録し把握に努めている。利用者様のできることでできないことについては職員と一緒に実施し、職員間で話し合うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者毎の担当者がアセスメントを行い、ユニット会で話し合い職員間で情報を共有している。利用者様やご家族の意見や希望を反映して介護計画を作成している。6か月に1回介護計画の見直しをしている他、状態の変化に応じてその都度話し合い、声かけを統一するなど利用者様が安心して生活ができるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 利用者の暮らしの希望を個々の担当職員が聞き取り、前回の介護計画を基にして計画案を作り、副主任等が聞き取ったご家族の要望等を採用入れて、計画作成担当者が介護計画を作成している。ユニットごとに全利用者の介護計画書を1つのファイルにまとめており、職員はファイルをみながら計画内容に沿った支援を行い、記録することに努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別のケースには日々の様子を詳細に記録し、健康表には食事・水分量(目標量も表示)・排泄の状況が一目でわかるように記録している。申し送りを密に行い、情報を共有し統一したケアができるように努めている。介護計画の見直しには有効に活用している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人が外食や買い物、家に帰りたいと言われた時など、できる限り希望に添えるようにしている。今年は今治大島の吉海バラ園にプチ旅行を実施した。受診時家族が実施できないときは、臨機応変に職員が対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 月1回の介護相談員さんの訪問、週2回のパン・月1回の菓子、衣類等の移動販売、2ヶ月に1回の訪問理美容を実施しほとんどの利用者様が活用している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者様が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続してもらうことを基本として支援している。家族が同行できない場合や緊急時には、職員が受診介助をしている。受診状況等は双方が詳しく報告する。入所前から往診してくれるかかりつけ医を利用している利用者様もいる。	
			(外部評価) 看護職員が利用者の健康管理をしている。職員は、利用者の健康状態について気になることがあれば相談して、必要時には看護職員が主治医に連絡を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者様の身体・精神面の気づきや、急変時には看護師に報告し指示を得るなどの連携を図っている。夜間や休日等は必要に応じてオンコール体制を整えている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時施設から医療機関へ生活の様子を報告している。入院中も定期的に面会し、病院関係者や家族と話し合い情報を交換している。3ヶ月に1回協力病院や法人内職員と会合を持ち連携を強化している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期については入居契約時に説明し、必要時は主治医との連携を密にし、家族・本人の意向に添えるよう話し合っている。年1回うみかぜ合同の施設内勉強会を実施。外部研修にも参加し報告内容を共有している。	
			(外部評価) 入居時、ご家族に事業所での終末期支援について説明等を行い、さらに必要時に、再度話し合いの場を持つようにしている。事業所が小規模特養に併設していることもあり、ご家族は、終末期には特養へ移ることも考えており、申し込みをする方もある。職員は、法人内・外の研修を受けて終末期支援について勉強をしており、知識等を得ている。今後はさらに、利用者の終末期の希望を探る取り組みや、ご家族と一緒に勉強するような機会等も作ってほしい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員が落ち着いて応急手当や初期対応ができるようマニュアルを作成しているが、実際の場面に直面した時の不安はある。今後も定期的にAED等の勉強会を継続すると共に、今後も新人職員優先に外部研修への参加をしていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(外部評価) 併設施設と合同で年2回避難訓練を行っている。3月の訓練時には、初めて地震、津波を想定した避難訓練を実施した。備蓄は現在、5日分準備しており、今後は、実際に職員の緊急連絡網を回してみるような取り組みも行う予定である。さらに、地域の方達と一緒に避難訓練を行ったり、地域の自主防災の取り組みへの参加等、地域との協力体制作りに向けても取り組みをすすめてほしい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 月1回実施している施設サービス向上、虐待防止、身体拘束廃止委員会、2ヶ月1回の認知症ケア勉強会で職員の言葉かけ等について点検、改善に向けて話し合っている。利用者様を人生の先輩として意識した対応をし、利用者様が落ち着いて笑顔で生活できるよう心がけている。 (外部評価) 利用者同士の関係作り等を課題に挙げており、皆が集う居間の席順については、テーブルを分けたり、職員が仲に入る等して利用者同士が気持ちよく過ごせるよう努めている。職員は利用者に対してゆっくりした態度で対応していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 週1回の選択食、月1回のモーニングバイキングを実施し自己決定の支援の機会を提供している。誕生日に本人の夢を叶える「夢プラン」を一人ひとり実施し、必要時家族の協力も得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の身体面のレベルや趣味に合わせて、どのように過ごすかを提供している。ゲーム・作品作り・植木の水やり等同じ時間帯に実施することもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の更衣時3名の利用者様が自分で選んだ衣服を着用している。気に入った衣服を連続して着ている方には、さりげなく違ったものを進めるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本的には外部委託の厨房で調理している。ユニットでご飯を炊いたり、配膳をしている。お好み焼き、焼きそば、鍋物など利用者の目の前で調理し楽しんでいただいている。また、外食を取り入れ食事が楽しみになるよう工夫をしている。	利用者主体の食事を支援することはグループホームの特長でもあり、今後さらに、利用者の持っている力や個々のこれまでの食事の習慣等を活かした食事支援に工夫してほしい。利用者が食事一連の中でかかわる場面を作り、利用者の自信回復や意欲向上につなげていってほしい。
			(外部評価) 現在、法人厨房から食事が容器に入って届くようになっており、職員が盛り付け等して配膳している。職員も希望者は利用者と同じ食事を食べることができるが、希望者は少ないようだ。法人全体で給食委員会があり、事業所からは利用者の食事の感想や固さ等の意見を出している。事業所で食事を作る「ユニット食」の日が不定期にあり、料理番組を参考にしたり、職員の提案、利用者の希望をもとにメニューを決めている。調査訪問時には、職員は、持参したお弁当を利用者と同じ席で食べており「おいしいですか？」等と聞きながら介助を行っていた。調査訪問時、利用者のお一人が、「この食事は薄味で上手よ」と感想を話してくれた。お盆拭きする利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士よりカロリーや栄養バランスを考えて食事・おやつを提供している。摂取量については個別の健康表にて把握している。水分補給はお茶以外には好みの飲み物(ジュース、ミルクティー等)を準備し、細目に提供し摂取してもらえるように配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けし口腔ケアを実施している。自力、一部介助、全介助とさまざまであるが、利用者様に応じた援助を実施している。義歯は寝る前に洗浄剤につけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 定期的にトイレ誘導したり行動の変化を観察し、定期的にトイレ誘導を実施し、排泄パターンを把握し自立に向けて支援を行っている。1名紙パンツから布パンツに変更している。パットは使用しており定期的に確認している。</p> <p>(外部評価) 事業所内の扉は、同じような造りや色になっており、トイレには黄色の紙に黒く太い文字で「トイレ」と書いて貼っている。排泄状況を記録して声かけや誘導にて、トイレで排泄できるような支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 下剤服用者もいるができる限り散歩等にて運動したり、水分摂取にて自然排便できるように努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 午後入浴される方がほとんどである。午前中の中入浴を希望される場合、希望に応じるようにしている。失禁時には清潔保持の為シャワー浴にて対応している。複合施設のため身体機能に応じて機械浴も使用可能である。</p> <p>(外部評価) 入浴をめんどうがる方には、「ちょっと」と脱衣所に誘い、「お風呂を見てほしいのですが」と声を掛ける等、一つひとつの動作を促しながら入浴につなげられるよう支援している。入浴を断ることが続くような場合は、介護計画に挙げて、職員で目標を共有しながら支援に取り組んでいる。さらに、利用者一人ひとりが気持ちのよい入浴ができるように、個々のこれまでの入浴の習慣等も探ってみてはどうか。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 昼夜逆転にならないよう日中活動を多くしている。夜間不眠の時は短時間の昼寝を促し身体が休息できるよう配慮している。起床や入眠時間については希望にあわせて対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用中の薬については、薬の説明書をケースに入れ、スタッフが内容や副作用について理解できるようにしている。変更時には必ず申し送り状態観察を行うようにしている。誤薬防止のため薬箱の工夫やダブルチェックをする体制を整えている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中でできることや、一部介助でできることを観察しながら取り組んでいる。書写・観音様への参拝・洗濯物干し・たたみ・草引き等個別の好みに応じて支援している。又定期的に利用者様の自宅庭よりご家族が花を持参して下さり、一緒に生け花を楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 施設の庭に観音像があり、散歩時には必ず立ち寄っている。グループ外出では喫茶店にてお茶会、スーパーでの買い物、日帰り旅行、外食では回転寿司等を実施した。年間計画をたてることにより外出支援が増えている。	
			(外部評価) 月1回は計画を立てて出かけているが、外出をあまり好まない利用者が多いユニットは、外出の機会が少なくなる傾向にあるようだ。ご家族と一緒に外食するような方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は1名のみ現金を所持している。他の方は施設で預かっている。お金の心配をされる方については、職員が説明を十分に実施し安心して生活できるように援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の使用はいつでも使用できることを声掛けしている。電話の依頼時には早く対応し、取り次ぎなどを実施している。絵手紙や年賀状の作成時には、ご家族に投函できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関・居間は和の雰囲気があり、ユニット間を自由に行き来できるようになっている。共同生活室や談話コーナーにはソファなどを配置し、ゆっくりくつろげるように配慮している。壁には季節の作品を創って飾ったり、ユニット活動の様子を写真を展示して季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 居間の掃き出し窓からは、隣接する公園の芝生の広場が眺められ、利用者は居間から外に出て、職員と日向ぼっこしたり、洗濯物干しや取り込みをしている。又、中庭で草引きする方もある。居室前の廊下で歩行練習する利用者があり、歩いた距離が分かるように10mの地点に印を付けてあった。又、雨の日は、併設施設につながるドアを開放し、ぐるっと廻れるようにして歩行練習することもある。雑誌や新聞、リハビリやレクリエーションの用具等が整理されており、利用者それぞれの状態やレベルに合わせて職員が提供している。温度、湿度計をかけており、職員は意識しながら管理している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関にはちょっと座れる「いろり」や、共同生活室のテーブルの配置はその都度変え、利用者様が穏やかに過ごす事ができるように配慮している。他に談話コーナーや畳のスペースも確保している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居室はベットの洋室と畳敷きの和室があり、利用者の生活習慣や状態により使い分けをしている。居室には洗面台、クローゼットが完備している。自宅で使用していたダンス、テレビ、ソファ、仏壇など持参していただき、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 仏壇を持ち込んでいる方は、移動販売日にお供え物を職員と買いに行き供えている。枕元に仏壇を置いて写真を飾っている方もあった。畳に布団を敷いて、這って移動する方は、手にスリッパを履き、レッグウォーマーを付けて、ご自分の力で移動していた。男性利用者の中には、ハンガーにジャンパーやベストを掛けて、その日の気分で着る服を選ぶような方もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 利用者様から見やすいように展示物の位置、ごみ箱の位置などに配慮している。トイレや部屋表札などを大きく表示することによって迷わず自力で使用することができている。</p>	